

(文献紹介)

最近出た三つの経済資料の紹介

杉原 四郎
(甲南大学名誉教授)

『宮田文庫目録』(編集発行 学校法人吉備学園岡山商科大学、2004年9月、173ページ、非売品)

宮田喜代蔵(1896-1977)の蔵書(4560冊)は、すべて岡山商科大学に寄贈され、「宮田文庫」として保存・利用されることになった。宮田は東京高商で福田徳三の指導を受け、卒業後名古屋高商、母校の神戸高商、同大学名誉教授、関西学院大学、追手門学院で経済原論・貨幣論、経済政策論、産業構造論などを研究・指導した。また、大正末期欧米に3カ年留学、ドイツで哲学の研究をした。東京商大から「貨幣経済の本質に関する生活経済学研究」で経済学博士の学位を得た(宮田はゴットルの研究者だった)。こうした経歴の中で形成された蔵書は、わが国の典型的な経済学者の蔵書として質量ともによく整ったもので、それが分散されず一括して一大学におさまった点、また、宮田の教えを受け、岡山商科大学の教授であった山崎怜(香川大学名誉教授)の手で周到に編集された蔵書目録が完成したことは意義深い。

『一橋論叢』特輯「福田徳三とその時代」(2004年10月号、225ページ、日本評論社1,660円)

「福田徳三の経済思想—厚生経済・社会政策を中心に—」(西沢保)を巻頭に、「福田徳三の商業論」「福田徳三の国際政治思想」「大正期の欧州経済史学と『福田学派』」の四論文と、金沢幾子編の「福田徳三年譜・著作年譜、付索引」をおさめる。福田徳三は河上肇とならん

で、近代日本経済思想史の二大指導者であるが、河上とくらべると福田に関する研究資料は戦前非常に少なかった。戦後漸く、その不均衡は解消されつつあるが、今なお福田研究は不十分である。『一橋論叢』のこの特輯号は、福田研究を大きく前進させるすぐれた内容である。特に、多年一橋大学図書館につとめた金沢の作成した年譜は、福田研究の礎石を資料的にかためた労作で、この年譜に助けられつつ同時にこの年譜の不備を埋めつつ、今後の福田研究は前進するであろう。

『人生は出会いである ― 平瀬巳之吉追悼文集 ―』（編者 平瀬康江・松本真美、角川書店、非売品。2004年12月、189ページ）

平瀬巳之吉（1912-98）は、東京大学出身、経済学担当。専修・明治大学で経済原論担当、本書は遺稿、追悼文集、年譜・著作目録等からなる。